

平成 26 年 3 月 25 日

沿岸防災研究室

フィリピン台風 Haiyan 災害に関する第2次現地調査報告

1. 概要

台風 1330 号（通称 Haiyan, 現地名 Yolanda）による風, 高潮, 波浪とそれによる施設等の被災について, レイテ島及びパナイ島（レイテ島の西側）において施設等の被災状況や高潮の痕跡高, 台風上陸時の風や波, 流れの状況等について現地調査するとともに, その調査結果等をフィリピン国運輸通信省（DOTC）に報告した。

なお, 台風 1330 号は平成 25 年 11 月 4 日 8 時（現地時間）に発生し, 8 日 4:40 頃にサマール島に上陸, フィリピン諸島南部を横断し, 8 日夕方までにスール海に抜け, 11 日 15 時に熱帯低気圧に変わった後消滅した。気象庁資料によれば, 最低中心気圧は 7 日 20 時～8 日 2 時の間に 895hPa を記録し, 最大風速もこの間に 65m/s を記録した。伊勢湾台風と同程度の台風である。フィリピンに来襲した台風で中心風速が最も大きな台風は 1970 年の台風 Joan (76m/s) であり, 台風 Haiyan は 7 番目に大きい台風である（フィリピン国気象局（PAGASA））。

2. 調査団員

浅井 正	沿岸海洋・防災研究部沿岸防災研究室長
河合 弘泰	港湾空港技術研究所海洋情報研究領域長
本多 和彦	同 アジア・太平洋沿岸防災研究センター主任研究官
藤木 峻	同 海洋情報研究領域海象情報研究チーム研究官

3. 調査日程

平成 26 年 1 月 28 日(火)～平成 26 年 2 月 4 日(火)

〔 概要 〕

1 月 28 日(火) 出国, フィリピン国へ移動
1 月 29 日(水) Panay 島内の現地調査 (Estancia 港, Culasi 港, Dumaguít 港)
1 月 30 日(木) Panay 島内の現地調査 (Lipata 港, Caticlan 港)
1 月 31 日(金) 移動日
2 月 1 日(土) Leyte 島内の現地調査 (Tacloban 空港, Tacloban 港, MacArthur 公園周辺)
2 月 2 日(日) 資料整理
2 月 3 日(月) 運輸通信省 (DOTC) 訪問
2 月 4 日(火) 帰国

資料：現地の被災状況等



調査ルート図



事務所でのヒアリング
(Estandia 港)



高潮痕跡高の測量
(Estandia 港)



浸食された海岸と被災した倉庫
(Estandia 港)



沖合に堆積した流出物
(Culasi 港)



岸壁の吸出し
(Lipata 港)



高潮により破断した海岸護岸
(Tacroban 空港)



高潮により侵食を受けた砂浜
(Tacroban 空港)



打ち上げられた船舶
(Tacroban 港)



被災護岸の天端高さを測量
(MacArthur 公園)